～子どもたちに贈るメッセージ～

今、君たちに伝えたいこと

一本の鉛筆、一枚の絵、自分の中で芽生えたひとつの問いから始まること

アーツカウンシル東京　プログラムオフィサー　嘉原　妙

私が小学生のころ、先生が、「一本の鉛筆」がどのようにして作られ、私たちの手元に届くのかを話してくれたことがありました。先生の話を聞きながら、私は、鉛筆を作る人のことを、一人一人想像しました。例えば、鉛筆の芯の材料となる黒鉛を鉱山から掘り出す人、山の中で木を伐採する人、それを集めてトラックや船で運ぶ人、工場で機械を使いながら鉛筆の形を作る人、工場からお店へ届ける人……というように。会ったことも、話したこともないけれど、遠くの誰かの姿を想像し、こんなにもたくさんの人が関わってこの一本の鉛筆が私の手の中にあるのか、と静かに驚いたことをよく覚えています。

そんなの当たり前じゃないか、と思われるかもしれません。でも、どんなささやかなことでも、これはなんだろう？　どうしてなのだろう？と興味をもつこと、想像を膨らませ、ぐるぐると考える中でハッと何かに気付き、「すごい！」と驚くことはとても大事なことです。だって、それは自分の中で何かが変化したということだから。変化とは、成長の証です。

私にとって忘れられない、ハッとした出来事があります。それは高校二年生のときに受けた美術史の授業でのこと。美術史とは、昔の絵画や彫刻などの美術作品が、いつの時代に、どのようなアーティストがつくったのかという歴史の授業です。私は絵を眺めるのが好きでした。「ああ、なんてきれいなのだろう」と思ったり、絵の中に描かれている人や動物、植物が動く姿を想像したりするのが好きでした。

でも、その授業で、作品とはただきれいな絵を描いただけのものではないということを知りました。作品には、それが生まれた社会の状況や、制作した人の人生が反映されていることがあります。例えば、戦争や政治、アーティスト自身の恋や別れ、家族との関係などです。それを知り、もう一度絵を見たとき、さっきまできれいな絵にしか見えなかった作品が、私には社会やその作者を結ぶ「窓」のように見えたのです。そして、私の目の前の世界がぐっと広がっていくように感じました。そのとき、ひとつの問いが私の中に芽生えました。「今、私が生きているこの世界にもアーティストが居るのなら、彼らはどのような人で、一体どのような作品をつくっているのだろうか？」と。

あれから約二十年、私はずっとその問いを考え続けながら、今も美術やアーティストに関わる仕事をしています。

あなたは、アーティストに出会ったことがありますか？　もし、出会ったことがなかったなら、アーティストとは、どのような人だと思いますか？　絵を描いたり、彫刻をつくったりしている人、音楽家やダンサー、写真や映像を撮っている人、物語を書いている人など、きっといろいろな「表現」をする人の姿を想像したのではないでしょうか。

表現の方法はアーティストによって様々ですが、私は、アーティストとは、自分が感じた違和感や疑問に正直に向き合い、考えようとする人だと思います。「当たり前」だと言われることを「本当にそうかな？」と立ち止まって考え、自分の中に浮かんだ問いに対して、いろいろな方法を試しながら探っていく人です。

私はアーティストではありませんが、彼らとともに考え、作品をつくる時間を過ごす中で、自分自身の感覚に正直になることや自ら考えること、分からないと感じるものごととの向き合い方を学んできました。そして、今も学び続けています。

二〇二〇年、今、「当たり前」だと思っていたことが大きく揺らいでいます。どうすればよいのかと、たくさんの大人が戸惑っています。私もその一人です。でも、ふうっと一呼吸して思うのです。すぐに答えが出なくたっていい。迷い、悩みながら、今感じ取っている違和感を見つめ、考え続けながら行動していこうと。

あなたは、今、どのようなことを感じていますか？　何に疑問をもっていますか？　どうか、その感覚や問いを大事にして生きてください。いつかどこかで、この文章を読んでいるあなたと、あなたの問いや試してきたたくさんの方法、気付きの出来事について語り合える日が来ることを願っています。

プロフィール

兵庫県生まれ。京都造形芸術大学卒業。大阪市立大学大学院創造都市研究科（都市政策学）修士課程修了。NPO 法人 BEPPU PROJECT にて，地域をフィールドに様々なアートプロジェクトの運営を経験。主に「国東半島芸術祭」事業（2012-2014）にて美術・パフォーマンスの作品制作・進行管理，地元企業や市民と協働したツアープログラムの開発等を行う。2015 年４月よりアーツカウンシル東京 プログラムオフィサーとして，東京アートポイント計画，人材育成事業「Tokyo Art Research Lab」，東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業「Art Support Tohoku-Tokyo」等を担当。